

進路室通信

令和2年
6月19日(金)
発行
進路指導部

進路指導も再開！

登校が再開し、進路指導も再開しました。四月と五月に予定していたガイダンス等の進路行事は、コロナ禍の影響で実施できませんでした。その分を補うべく、今月は多数の進路指導行事を行っています。

専門学校ガイダンス

八日と十日の放課後二回に分け、希望者を対象に専門学校ガイダンスを実施しました。マスクの着用と共に教室を避け、体育館で生徒同士の間隔を広げて感染防止対策をとりました。

冒頭三学年主任の益子先生から「いろいろな専門学校があること」、「安易に決めず、担任の先生のアドバイスに十分耳を傾けて欲しい」ことなどの話がありました。みなさんは何を受け取ったでしょうか。一緒に聞かせてもらって、学年の生徒全員を背負った益子先生の愛情がひしひしと伝わって来ました。きつと三年生のみなさんも、そういう思いを感じ取ってくれたのだと思っています。

そのあと進路指導部より、八日は文道先生、十日は片山先生から左記の具体的な話がありました。

- ・ 専門学校は自分の目標とする職業に対し、事前に専門の知識や技術を身に付ける学校である
- ・ 殆どが100万円以上の学費を必要としている
- ・ 学校選びの手順とポイント
- ・ 就職率100%、合格率100%に騙されない
- ・ 受験する学校はいつまでに決めればよいか

など、専門学校への進学を考えている生徒にとって大切な情報でした。少しの情報で簡単に決めてしまうことが一番心配ですので、家庭でもしっかり相談してください。二十四日からの三者面談も有効に活用してもらえればと思います。

新聞に触れる

前号でお伝えした通り毎日、進路指導室と3年生の教室に新聞が届いています。折角の新聞を、市柏生のみなさんには大いに活用していただきたいと思っています。

日本新聞協会HPを開いて、一世帯当たりの新聞購読部数を調べてみました。2019年10月新聞協会経営業務部調べでは、一世帯当たりの購読部数は全国0.66、千葉は0.62でした。千葉県では100世帯のうち38世帯の割合で新聞を購読していない現状が分かりました。

また、インターネットで「新聞を取っている家庭」と検索してみると、

新聞の定期購読 保護者の33%が「経費節約」
一方で68%の親が「子どもに新聞読んでもほしくない」というものがありました。（「マネージン」というHP

URL: <https://moneyzine.jp/article/detail/215515>

時代の流れとともに、新聞に触れる機会のない生徒も増えていると思われます。教室で新聞が読めるのですから、この機会に新聞の価値を実感してもらいたいと願っています。

情報の質

即時性において、新聞はテレビやネットの足元に及びません。それとは別の「新聞の価値」とは何でしょう。池上彰著『新聞の読み方』（祥伝社）の中で、「新聞を購読する必要があるのか」という疑問につ

いて池上さんは次のように書いています。

それでも新聞は必要だ、と私は思います。あなたがネットで得られるニュースの多くは、新聞社が取材した記事です。新聞社が消えてしまったら、ネットに新聞社から配信される記事もなくなってしまう。

新聞記者たちは、取材の仕方から原稿の書き方、事実関係の確認について、厳しく指導されて育ってきました。そのためには費用もかかります。こうした努力があつてこそ、良質な記事が生まれるのです。最近はネット専業のニュースメディアも登場しています。おやつと思つような新鮮な視点の記事も配信されます。その一方で「テレビのワイドショーでのタレントの発言が炎上した」という類のニュースが増えています。ネットニュースのメディアは取材にコストをかけるだけの経営的な余裕がありません。少数の記者がテレビ番組を見て「ニュースに仕立てるといふ手法が広がりました。

「ネット」がネット配信される」「これがニュースだ」と思つてしまつても増えるでしよう。



新聞社が取材した情報



ネットニュース
匿名SNS情報



コメントターの私見

メディアそれぞれに長短があります。新聞の良さを高校生という頭の柔らかなうちに実感しておく価値は大きいと思います。是非、新聞を活用して学んでください。情報に踊らされない、賢明な市民になるためにも。